

新総統 明確に川を渡った

論考

頼清徳氏の演説からは、アイデンティティや経済の面で中国と近づくということは無く、「明確に川を渡った」という印象を受けた。8年前の蔡英文氏の就任演説にあった中国との関係改善に備えるという部分が消えた。これは蔡氏が中国と交渉できると信じ、譲歩して

松田康博・東大教授

(中台関係論)

も、結局中国は軍事的威嚇や経済的威圧を強め、「裏切られた」との思いがあるからだ。

中国は引き続き、野党勢力にテコ入れをするなど民進党政権を徹底的に追い詰めるはずだ。

軍事的な危機は、ペロシ米下院議長（当時）の訪台のような米国や台湾側からの行動がない限り、起きにくいだろう。米国

が中国を抑え込んでいるからだ。今秋の米大統領選でトランプ氏が当選しても、スタッフは対中強硬派になるはず。台湾への姿勢が大きく変化する可能性は高くない。

頼氏は米国の信任を得るために、台湾独立の言動を封印している。

大きな構図が変わることはない。ただ問題なのは、中台でコミュニケーションチャンネルがなく、危機管理が困難なことだ。

(聞き手・岩田恵実)